

私と胃癌

浅香 正博

Masahiro ASAKA
北海道医療大学学長

[経歴]

1972年 3月 北海道大学医学部卒業
1978年 4月 北海道大学医学部付属病院第三内科助手
1994年11月 北海道大学医学部内科学第三講座教授
2000年 4月 北海道大学大学院医学研究科消化器内科教授
2007年 4月 北海道大学病院病院長
2011年 4月 北海道大学大学院がん予防内科学講座特任教授
2016年 4月 北海道医療大学学長
現在に至る

[趣味] テニス, 写真, 菜園, 旅行
[座右の銘] 継往開来

第7回

ピロリ菌除菌による胃癌予防はどこまで可能なのか？

はじめに

胃癌はわが国の歴史上最も多くの人々の命を奪った悪性新生物として認知されている。私が卒業した1972年当時は、癌の中で罹患者数、死亡者数ともに胃癌がトップであり、文字通り、胃癌はわが国において癌の王様であったのである。そのためわが国の癌研究はほとんどが胃癌に特化されて行われ、1960年代にわが国の研究者の総力をあげて早期胃癌の概念を世界に先駆けて作り上げた。胃癌の浸潤が粘膜または粘膜下に留まっているものを早期胃癌として定義した。早期胃癌の予後は通常胃癌よりはるかに良く5年生存率は90%を超える。したがって胃癌